

## 式辞

宮川をわたる風も少しずつ暖かくなり、春の息吹が感じられる今日の佳き日。この御菌中学校を巣立ちゆく60名の卒業生の皆さん、ご卒業本当におめでとうございます。みなさんの晴れの日を迎え、教職員一同、心からお祝い申し上げます。

みなさんにとって多くの人は、この中学校での三年間だけでなく、小学校も含めて九年間もの時間を共に過ごしてきた仲間となります。それは自分自身の「ベース」を築き上げる大切な時間を共に過ごした家族のようなものでしょう。卒業生のみなさんの姿を思い返すと、学習や部活動、そして行事の一つひとつにおいて、いつも笑顔で取り組む姿が浮かびます。

さて、みなさんがこの中学校に入学した三年前というと、WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で日本代表「侍ジャパン」が世界一に輝いた時で、その姿は、今も多くの人の心に深く刻まれています。みなさんにとっても、日本中が熱狂した「侍ジャパン」の活躍は記憶にも新しいことでしょう。あの大会がなぜ、世代を超えて私たちの心を打ったのでしょうか。それは単に「優勝したから」だけではありません。そこには、これからの未来を生きる皆さんに、心に留めておいてほしい姿があったからです。

一つめは「自分の可能性を信じる」ということです。「憧れるのをやめましょう」これは決勝戦直前という緊張感の中で、大谷翔平選手が円陣で放った言葉です。「相手をリスペクトしすぎて受け身になってはいけない。今日一日だけは彼らを尊敬するのをやめて、勝つことだけを考えよう」という決意でした。

皆さんもこれから、新しい環境で自分より遥かに優れた才能や、高い壁に出会うでしょう。その時、「自分には無理だ」と引いてしまうのではなく、対等な挑戦者として向き合う勇気を持ってください。憧れを「眺めるもの」から「追い越す目標」に変えた時、みなさんの本当の成長が始まります。

もう一つは「仲間と自分を信じ切る心」です。侍ジャパンの栗山監督は、大会を通じて一貫して選手を「信じ切る」姿勢を貫きました。不調に苦しんでいた村上選手を信じて打席に送り続けた結果、劇的なサヨナラヒットが生まれました。

みなさんも中学校生活を共に過ごした仲間との絆も、まさにこの「信じる力」によって育まれてきたはずで、これから先、困難にぶつかった時には、自分を信じてくれる人がいること、そして何より自分自身を信じ抜くことを忘れないでください。その「信じ切る心」が不可能を可能にする大きな力となります。

侍ジャパンの選手たちが、年齢や所属チームの垣根を超えて、「世界一」という目標に向かったように、卒業生の皆さんも、この御菌中で得た「志」「仲間との思い出」を胸に、それぞれの場所で新しいチームの一員となって、夢の実現に向かってください。

最後に保護者の皆さま、地域の皆さま、本日はご臨席ありがとうございます。保護者の皆さまにとってはこれまでの義務教育の九年間、大変なことも多かったことでしょう。しかし、今日このように立派に成長したお子様の姿を見ていただくことができ本当にうれしく思っております。おうちの方々の深い愛情や地域の方々の暖かい見守りがあってのことだと思っております。本日は本当におめでとうございます。そしてありがとうございます。

それでは、卒業生のみなさん、これまでみなさんの成長に関わってくださったおうちの方やすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、ぜひその感謝の気持ちを、自分なりの言葉で伝えてください。卒業生のみなさんのこれまで以上の活躍を祈りつつ、簡単ではありますが式辞といたします。